

大阪YMCA 125年の歩み (2)

戦時中、日本のYMCAは海外YMCAとの関係を断ち、宗教団体法により日本キリスト教団の下部組織となり、翼賛体制のもとに戦争協力の道に突き進まざるを得なかった。戦局の悪化に伴い活動は困難を極め、休会同然の状態で敗戦を迎えた。戦後は本館の一部が進駐軍に占拠され、教育部の校舎が失火のため全焼するなど復興にはしばらくの時を要した。

敗戦5年後の1950年、大阪YMCAは全国YMCA5カ年前進運動の一環としてアベノ橋プラザを開設し、この頃から復興が本格化した。58年には大々的に募金運動を行い、戦前からの懸案であったユースセンターが竣工した。この時は「賛助会が中心となり、大阪の財界からも多大の支援を受けた。新しい時代を担うべき青少年と大阪YMCAの働きに対する期待が大きかったのである。64年には第2ユースセンター(アベノ)が開館し、その後の大阪YMCA発展の足掛りとなった。大阪YMCAはこの年にメジャーポリシーを発表、府下の主要拠点に積極的にプラザを開設するの方針を打ち出し、



以後10数年間に次々に急ピッチで施設を拡充し、事業と組織の規模を拡大していった。

大阪YMCAは60年代から80年代にかけて大きく発展したが、時代と共にYMCAとしてのあり方も、それに関わる人々の意識も大きく変化した。高学歴化、国際化、情報化の急激な時代の流れの中で、より多くの人々の多様なニーズに即応する、より専門的な事業内容が求められ、一方で理事、役員、スタッフの主たる関心は事業体としてのYMCAをいかに維持し、運営していくかといったマネジメントの課題に向けられるようになった。運営組織と会員制度の変更もあったが、その中心的な課題はYMCAの基本精神であるキリスト教基盤を堅持しつつ、いかにより広く社会に開かれた団体にしていくかということであった。

90年代に入り大阪YMCAは、いわゆる「平成不況」と急激な青少年人口の減少により困難な状況が続いた。しかし、この試練の時に当たり多くの人々の祈りに励まされ、理事会をはじめ関係者の懸命な努力が続けられ、大阪YMCAは落ち着きを取り戻した。

1994年定期大会において大阪YMCAはミッシェンステートメントを採択し、この時代に大阪YMCAが果たすべき使命を明らかにした。そこに掲げられた諸項目を確認するとともに、創立125年のこの時に当たり、諸先輩の熱き祈りと志を共に継承していくものでありたい。

(協力会員・川村勇二)

※「賛助会とは：青少年の育成事業を支援することを目的として広く企業・諸団体の賛同と協力を得て、1952年に設立され、多様な社会貢献活動及び次世代のリーダーシップ養成活動に財政的支援をしていたいただいている会。」

「夏のキャンプが始まります」

「あゝわれらは こうした生活を賛美せずにはゐられない 尊い林間の学舎 愉快的天幕生活 此所こそ本然の教育の場所！ 希臘の哲人アリストテレスも 昔こうして学徒を教えたのである。」(大正十年九月九日)

上記の歌は、「天幕生活を訪るる歌」として賛美された歌です。少年義勇団としてスカウト運動から端を発した大阪YMCAの少年部は、1920年、六甲山麓西宮北南郷山において2週間の教育的組織キャンプをはじめました。その考えは、青少年の生活そのものを教育的に指導することができれば、教育上これほど望ましいことはないという考えからでした。

1860年代にアメリカで始められた組織キャンプは、その初期の時代においては「レクリエーションの段階」(1861~1920年)と呼ばれ、そこから「教育性強調の段階」(1920~1930年)、「社会性強調の段階」(1930年~)へといろいろな要素を含みながら移り変わっていきました。日本には1910年代に伝えられ、1920年頃に上記のYMCAの組織キャンプが行われたのを考えると、アメリカにおいてはちょうどレクリエーションから教育性強調の段階へ移行する時期に伝えられたことがわかり、青少年教育の先駆的役割を果たしました。

しかし、「現在の日本においてレクリエーション重視のキャンプがいまだに行われているのではないか」(江橋慎四郎：「キャンプの基礎」)との指摘のとおり、一般に行われるキャンプのイメージとしては、多くはレクリエーションまたはファッション的な捉え方が主流といわざるを得ないのが日本の現状ではないでしょうか。

大阪YMCAは本年125周年を迎えます。その歴史の中で、早い時期から青少年における野外での体験活動の価値に着目して来ました。それは非日常的な生活の中で、「なしつつ学ぶ」(learning by doing)活

動であり、「直接体験」(first hand experience)を大切にしたい体験学習でした。つまり、教科書だけで覚えた知識ではありませんでした。また、仲間たちと生活する中で、規律・共同・友情といった、社会的な行動様式にしても、観念としてではなく、キャンプ生活の中で具体的な行動を通して学び、身につけていくことのできるように、形式では終わらないように、子どもたちに「実感」として「育まれて」いく大切な価値でした。

YMCAでは組織キャンプをはじめ、もうすぐ90年目を迎えるようとしています。それはまさしく青少年の「生活そのもの」を見つめて、ユースボランティアリーダーたちとともに育んできた大切な価値でした。「今年の夏も多くの子どもたちがキャンプを通して大きく成長してくれる。」そんな祈りをもってリーダーたちとともに準備をしています。

土佐堀YMCAウエルネスセンター所長 福山 武志



Safety First

7月18日は大阪YMCA安全の日

大阪YMCAでは、屋外での活動の機会が多くなる夏を迎えるにあたり、毎年7月18日を大阪YMCA「安全の日」と定め、「生命」の大切さと、自分自身の「安全」と「他者」の安全と考える機会としています。

大阪YMCA 早天祈祷会

第171回 7月20日(金)
証し 岩間みどり(大阪YMCA協力会員)
第172回 8月24日(金)
証し 尾北 昇(YMCAサンホーム施設長)
*8月のみ第4金曜日となっております。
時間 7:30~8:30
場所 大阪YMCA会館
問合せ 大阪YMCA国際・社会奉仕室
TEL 06(6441)0894
E-mail info@osakaymca.or.jp

大阪YMCA 聖書輪読会

第14回 7月26日(木)
第15回 8月23日(木)
時間 午後7時~8時
場所 大阪YMCA会館
問合せ 大阪YMCA 国際・社会奉仕室
TEL 06(6441)0894
FAX 06(6445)0297
E-mail: info@osakaymca.or.jp

大阪YMCAユースリーダー安全基金ご協力のお願い

大阪YMCAでは、YMCA運動を支え発展させていく担い手であるユースボランティアリーダーの安全と研鑽のために、用いられる募金をお願いしています。ご協力をお願いいたします。
安全基金目標額 100万円
募金方法 一口 1,000円
募金期間 7月1日~8月31日
受付窓口 各YMCA
募金事務局 大阪YMCA統括本部 TEL 06(6441)0894